

目的の評価

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
学内行事委員会

本資料は、学園祭実行計画書運営要領「I.概要 B.目的」において定めた目的をもとに、第48回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照とする。

1 第48回筑波大学学園祭「雙峰祭」目的

「本学の持つ学術的並びに文化的な魅力を、学生が主体となって内外に表現する場を設けることを目的とする。また、多様な分野の相互の刺激を促し、本学における種々の活動をより一層活性化させることを目的とする。」

2 項目ごとの評価

2.1 「本学の持つ学術的並びに文化的な魅力を、学生が主体となって内外に表現する場を設けることを目的とする。」

雙峰祭への対面参加の事前予約は完売しており、当日もステージや教室の企画で十分な盛り上がりや集客が見られた。企画についても様々な種類があり、本学の幅広い学術や文化の魅力を発信できたと感じる。前年度オンライン開催、前々年度中止という状況で引き継ぎ等に不安はあったものの、大きな問題はなく雙峰祭を終えることができた。以上のことから、“本学の持つ学術的並びに文化的な魅力を、学生が主体となって内外に表現する場を設けること”は達成されたといえる。ただ、参加者アンケートではチケットの販売情報や飲食の情報などSNSでもっと早く詳細に告知をしてほしいという意見も多く見られたので、さらなる魅力の発信のためにも来年度の改善に期待したい。

2.2 「多様な分野の相互の刺激を促し、本学における種々の活動をより一層活性化させることを目的とする。」

雙峰祭には各分野各学類からの出し物や、文化系、芸術系、体育系の課外活動団体による多様な分野の企画が出されていた。各企画で集客を競い合う面もあったことから、相互の刺激が促されていたといえる。またそのような刺激を受けて、企画へ熱をもって準備をしていた団体も多く見られたため、活動が一層活性化されていたと思われる。以上のことから、“多様な分野の相互の刺激を促し、本学における種々の活動をより一層活性化させること”は達成されたといえる。

3 まとめ

以上の結果を踏まえ、今年度の学園祭の目的は十分に達成されたと判断する。筑波大学の魅力を内外に発信し、筑波大生としての意識を高められたと感じる。しかし、事前の情報発信など今回の目的とは違った面で来年に向けて改善していくべきことも見られた。来年度は今年度を踏まえて、より磨きをかけて雙峰祭を盛り上げていくことを期待したい。